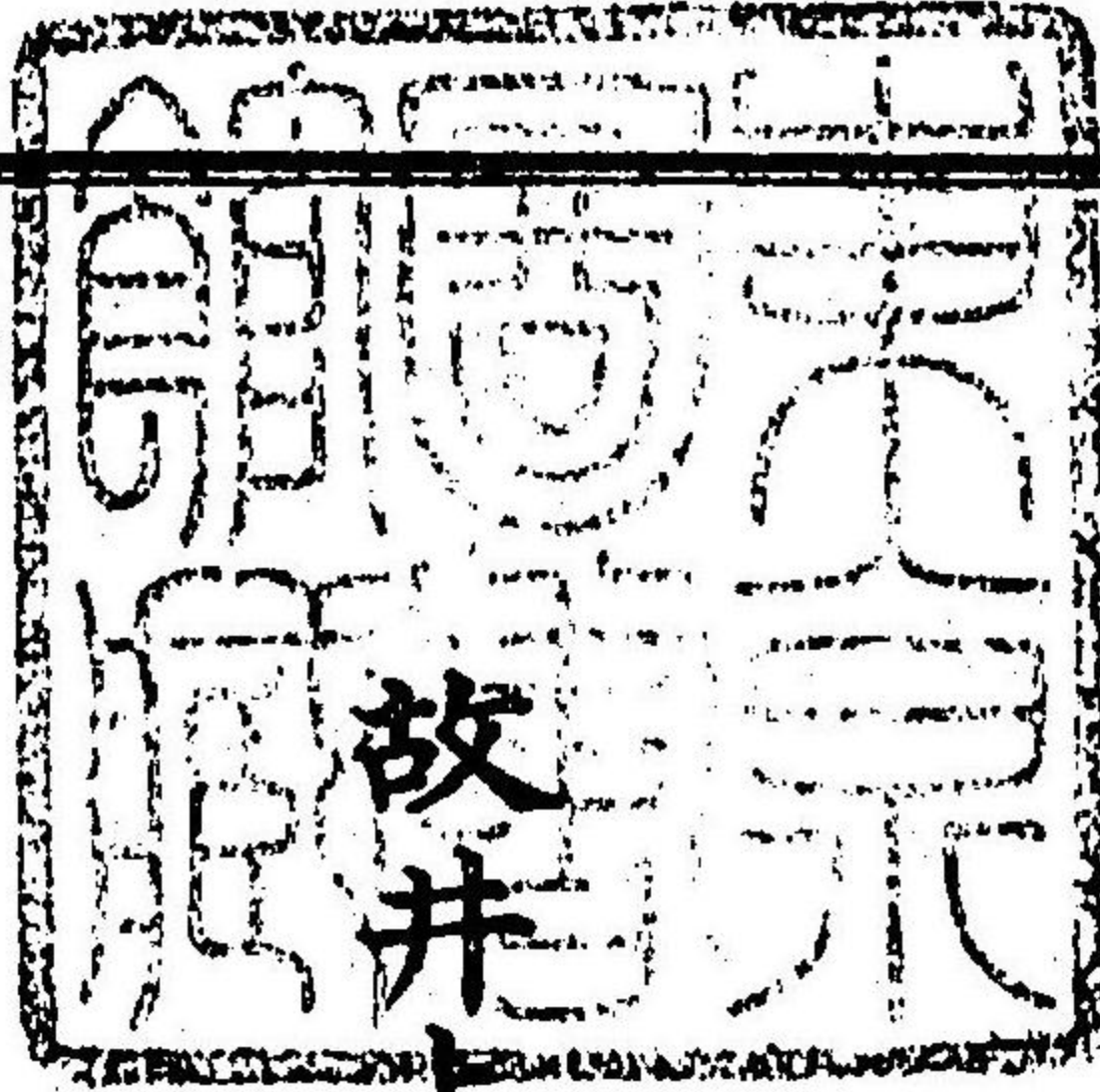


特 35
755

道唯
問答書
卷注
下

No. 8993

神道唯一問答書略註下卷



故井上正鐵翁遺書

門人 坂田鐵安 檢閱

鐵安男 坂田安治 謹註



問曰神道ハ正直を元と^{もと}と承^{うけたま}る正直なる心と^{こころ}いふハ邪^{よこしま}な
らぬをいふなるべし何を以て邪と^{よこしま}いふきを別^{わか}つや又直^{ただ}と
いふをいふなるを直と^{ただ}いふるや

この問のおもむきハ大人の正直と立らるるをいふ格
なるをいふぞと其限りを問われしなり

答曰ふきといふを皇國の祖神天照太神の御教を元と
其外八百萬神の傳へ給へる教をふきと申なり直といふ
を其教ふもとらば守りまもりて疑のなきを直といふなり
此疑ぐひなきを信心といひ又誠とも申なり

正直と邪曲を別つことハ先天照大御神の神勅及八百萬

神の傳へ給へる神語ハ恐とき神國の道なきバ此を
き法と一其みを一へよ直ふまがひ少も違ふ事なく朝
夕心ふかけて怠らばよく保ちて身を活るを正直とす則
これを信心といひ誠ともいふとなり

天照太神手持寶鏡授天忍穗耳尊而祝之曰吾兒視此寶鏡當
猶視吾可與同床共殿以為齋鏡 寶祚之隆當與天壤無窮矣

此神勅ハ御子天忍穗耳尊を天降ならんとて賜ひたる

然るみ忍穗耳尊降なむ装束せし間み子生坐つればこの
御子を降して吾はくごらんと思ふと言ひて更み皇孫邇
々杵尊み前のごと詔のらして降し給へり○天照太神手
持寶鏡といはゆる三種神器の中なる寶鏡を恭く御手
み持してなり○授ハ大御手より皇孫尊の御手み授け給
ふなり○祝之曰の富具といはれて祝ふ事を云ふ言よて言
富岐とも云へり○視此寶鏡ハ前にも舉ぐる如く大御神

の御神靈を此御鏡み取託て賜るなれば現御身の大御前
を視まらるが如くもべいと詔ひなり○同床共殿ハ即ち
皇御孫命と同一御在所同一御床み御坐しめ給へと詔ふ
なり○為齋鏡といは大御神ハ高天原み留り坐し皇御孫命
ハ此國み降り座て遙み隔り給ふ御別きなる故み今より
を此鏡を大切なる御守と崇め大御神の御神體として祭
り給へとなり○寶祚之隆當與天壤無窮ハ前の如くも拜

祭り給も、天皇の御代の継ぐ天地と共窮り無くみさ
うえまさむと詔へるなり○此大御言ありより以来今
の天皇ふりくるまで如斯みさうえ坐ハ貴く可畏き御事
よあらざや是を皇國の國體とハ稱きなり神習ふ人々よ
ゆるくよく此意を思へ

寶勅 倭論語

吾もろくの青人草偽りはうりて譬バ吉と思ふとも必ず

天の命のいうをうけて根の國よねもむうんふき心を
もちてまさよあしくとも必ず天の神の恵あらん

吾ハ本語新儀十一曰敬而親故曰阿雅とありくハ親の
語と聞ゆ○蒼生ハ御記よ宇都志伎青人草と見えて宇都
ハ現志伎ハ嬉しき悲しきの類の志伎よて辞なりさて人
草の事を如此詔ふハ幽冥事よ對へて顯露事と云へるが
如く目よ見えば顯ならぬ神よ對へて顯たる世の人と云

ことぞ青人草と云ふ所以ハ草の弥益々イハマスクも生茂りオモシゲをびこ
る小譬コトバへたる称ナなり青アヲと云へる小心を着ツクべしまこ此名
ハ神の人の利益クホサを為給ナシふ事と人の損害ソコナヒを為給ナシふ事とよ
のみ必用ツギふ称ナなりとあり○根ネの國クニとハ伊那志許米伎汚イナシコメキキタ
穢キクニ國クニとあり忌イハしき穢キクニき國クニなり○本文の趣オモムきハ人として
正直マコロならび邪曲ヨコシマの心を以て偽イツりて種々イロイのたむり事な
ど為スるものハ神のみいくりを受ウケて自然オノヅカラよろりぬ事ども

出来イデキ心を苦クしめ恒トコ小喜ヨロび樂ラクしむ事なく遂ツヒみ患ウレひ悲カナしむ
やうの事のみ起オコり根國ネクニといふ忌イハしき穢キクニき國クニもゆくべし
ままこ正直マコロをもちて神の道ミチも隨シふりのハ時トキふああしきやう
の事あるもやがてよき小直ナホをべき神の沛ホめぐみ沛ホは久
らひあらんとなり

もろくの生イク人ヒトら天アメふささううふ時トキハ道ミチなく地チふささううを其
幸サイキなり其元ソノハジメよはなれ根ネの國クニハ落ツクんぞ重オモて心ココロを天地アメノチも等ヒト

志くして思ひを風雲ふのせて道ふ志くぐふの本と一神を
守るの要とせよ方のくたく志き事を拂捨ひとら心の定
まれる法を尋ねて天の神の命ふかなく神の心ふかなく
生人らハ諸人らといふよ同ト天地の恵を知らで己が
カのみを以て事を行さんと為れを知らず穢らば道よた
がひて身の幸を得る事なく終ふ根國よ入落むりのぞ諸
人よそこみ心を用ひ穢き思ひを風よまうせて息吹をら

ひ雲よのせてながくやり神道を守るを要とせよとなり
守るとい道を守りて天の神の御言よ志くぐひ神の御心
よそむくなとなり

もろくの生人等天地ふ隨て玉の緒をつぎ皇祖をまつり
心の法をぶくし其みなもとの根を深ゆし宗廟の神をうや
まひて四方の國を志くぐへて天の位の尊き事を見てその
つぎを天の下ふひろむべし

人ハ万物の靈長とありて勝きてたふとき體を天地の間
よ生成されうましくも玉の緒を繼てある物なりされば
此皇國の人とるものハマづ皇祖の大神を拜きまつり惟
神の道を守り四方の國万國人までも吾日本の正しき直
なる心を志め天津日嗣あらうめす天皇の御威勢を天
の下に輝りなれとなり

三上大神託

常天の下の諸人正しき心を志らうめんと思ふ者
ハ神明これをよろこびて其名を天の下にあらわします幸
ハ子孫にあらる譬にまがれる者の一旦人のよかる事あり
とも神明かれをうむひてつぎなうるべし
正しき直きとハ前よ祝うごとく人の眞實の心なり其を
人よもあらうめんと心を盡すものハ神もあらうめんと思
召て名を立功を顯し子孫までも恵と給ふとなり又まが

まゐる者といは直スジならぬをいふ是コトは正タダしく直ナホきよ對ムカへて云
なるべしよこさまといふと同ナニく其ソノまがれるよこさまの
心をもて人の上をこそよきやうふ云イハまげても有アらむ神
ハ聽ミし給タマふぬバかれをうむふとて自然シズカ物も事コトも成就トウジツを
ば損害シゴナべしとなりこれ神のみはくりなりか

南宮大神なんぐうおほのみじんと託たく

世の人の人をよく誘いざなひまゝふりのハ天あめの神地かみの神かみふつげ

てかれむくふ報むくふふつきざるの幸さいひをあゝ給たまへり人ひとの人を
さうしらいやめぬる者ものよハ天地あめつちの神かみ必ず災わざはひをあゝふ
ゆのなり善よと不善わるハ神かみのよくして國家こくわを守るまもるの要かならなり
人を誘いざなひとい他人たにんをよき方かたよ誘いざなひ導みちきまゝむるをいふ
如此このごとすれば神かみハ感あはれ給たまひて守まもり幸さいへ給たまふなり○さかいら
しいやめぬるといかこげは物をいひたゞ人ひとをあ
なづりいやむるやうの者を云いなり其そのを神かみハ惡わると給たまひ

て災災ひをあへ給ふとなり。○善善き悪悪きを定定め給ふこと
顯顯世世の事事を天天皇皇の知知り召召す如如く幽幽世世に坐坐す神神の預預り
給ふ事事を并并へよとなり。其其意意を玉玉鉾鉾百百首首にあらそにの事
ハ大大君君かみごとハ大大國國主主の神神のみくろ。又又目目よ見見えぬ
神神の心心のかとごとハ畏畏きゆのぞおほよな思思ひそ。とあり

新新羅羅大大神神託託

總總ての人心人心直直く正正しき其其身身ハ鬼鬼神神もこれを傾傾ず水水火火も

わうしえび金石金石も是是が為為し隨隨ひ利利刃刃も切切る事事なりと思
ふべし。もろ人人よ直直き心心の操操をかへむくる事事なり。れ

なべてハまぐてと云云ふ同同ド心心直直く正正しき時時ハ鬼鬼神神も傾傾
ずとなり。傾傾ハ字字書書よ。くづき。やぶる。など訓訓きハ此此所所の志
ハ妨妨げ障障りなど為為る事事なり。ぬと云云なり。○水水火火もあか
えびとハ水水火火の難難をも避避ると云云ふが如如し。○利利刃刃も切切る
事事なり。とハ是是も災災ひ遁遁るをり。と聞聞ゆ。○金金石石も

随ふとハ金や石のごとく堅く情なき物までも至誠を以てハ動うまづと云へる意ならむ何きよも誠の尊き謂を示されたるなり○末の文ハ前のごとくなるものゆゑ人ハ正しく直なる心をよく保つべいと云ふ意なりハ外難有尊き神教の傳へ教多けきど先其一ツ二ツをこゝのまゐるかゝる神教を少くも疑ぐひ思ふ心なく忘る事なく守りまゐるを以て正しく直なることとするなり

神の神傳も弁へば只我心ふてよーあーを弁へー招ふ覺えさうーらーきものを智早振神とて悪き心と教へ給ふゆゑ自然と慢心起り又驕りの心わらうて荒振神よきをこれ一曰ハ勢ひ盛なりとりくども後必ず災ふあひ又ハねとろく子孫ほろぶるものなり世この人を見るふそのたぐひ多く猶今の世よもたぐとど然らば尊き神の神傳なくしてハ永く榮えさうゆる事あるべからば恐れ慎むべきことなり

きつらーらーきハ前又云へり○智早振荒振ハ書紀又残賊
強暴横悪之神と書りいちをやぶるのいを略きて云へる
よて荒く恐るべき神と云えなりいちを強き勢ひを云ひ
てやハ俗又氣の速き氣のするどきなどいふ如くをび
きを云ことなりふるハ神さび神さぶる宮び宮がり夷び
夷がりなどのぶりが同どく其有状を云なり此所の智早
振荒振ハ右の祝のごとき悪鬼ハ寄添をれて我知が驕心

なご起り家を破り身を亡し子孫又患を遺すもの往古よ
り其例少うらび今の世も猶多うとされハ神ながら神
の道ハ随ふことなくバ永く榮えゆく事ハあらどとなり
問曰神ハ正直なる者を守護したまふと聞く然るハ我學友
なるもの若年より正直にして父母ハ孝をつくり人とま
りて私なく聖賢の道を入教諭す然るハ度々火難ハあ
ひ又子多く生るとりいとも成長する事なくたまへ

難かた小こ生立なま一子ひとハ不孝ふこうなり今いま老年らうねんふりて跡あと相續まうぞくするもの
なり不仕合ふしあわせなる者ものなり神かみハ善人ぜんじんを加護くご一給たまふといへるを
覺おぼ東あづまなる事ことなり其故そのゆゑよりをさとし給へ

問の意このこと本文このことよて明あきらけ

答こたへ曰いは神かみ不審ふしん法ほふ尤なほなる事ことよて藤原ふじはら氏の祖神そじん多武峰たぶつみ大神おほみかみの
曰いは唐土たうどの書かきを見みならひ西天さいてんの教きやうを修しゆ一得とくて我われ日本にっぽんの神明かみ
のみことこのりを見て淺あはらうみ思おもはん者ものを我われ其家そのいへよりた

アて或あるハみどり兒こを失うひ或あるハ重病おもむかひをさづけ其随そのまふものを
退しりぞけ或あるハ火乱くわらん神かみをて焼亡やきあはさん西天さいてん震旦しんたんの教きやうをきらへる
よハあらば本ほんをすて末すえをとる事ことをいふなり佛法ぶつぽふ儒道にうだうも
吾神道われかみちの潤色じゆんしきとせんいゆるを所ところなり神明かみの掟おきてをて儒佛にうぶつ
の潤色じゆんしきとまゐる事ことなりれ

藤原ふじはら氏の祖神そじんとハ上卷じやうまきニ神祇かみかみの四姓しじやうを舉たる彼中臣かのなかつひこ氏うぢ
よて大織冠おほむすかぶ鎌足かみあし公きみなり後のちニ藤原ふじはらの姓なづなを賜たまひ一みよりて

藤原氏の祖神といひへり大和國多武峰に祭らるるを
ふよりて多武峰大神といわれなり明治の御代となり
てハ談山神社と稱へまつらる○唐土の書を見習ひ西天
の教を修すとハ儒道佛道などをのみ尊信して皇國の人
たるものハ戴き尊むべき神の御教ごとを淺く軽く輕む
ずる者をさす如此き者ハ神事をもて罰め咎むるぞと云
る意なり○潤色といハ我神道を擴張むが為ハ外國の事を

も學び得て道をあらうむる助けとせるハ惡からずと云
然るを吾道を以て彼がため不用ふハ本末違ひて聽き
る事をうるといふ意なり

建石勝大神と託

諸人の我神國を忘れて父母の惠を弁ず本をたもて枝の言
葉の繁きふまよひて年より年小月より月小日より日小時
より時小迷ひぬるぞくるき吾神明の直き心の外小思ふ

べき事更ふな

父母の恵ウミナレといひ此身を生成ウミナレたる父母の如き神の恵ウミナレと云ふ
事と聞ゆ玉鉾百首よ「あぢきなき何のさうらたまたちを
ふ神りらうずておほろふて。此意ハりらきうやまふ
べき神をりらきうやまをばておろそらふてたご己
がかりこたてむらりをきるハ何事を無益ムキナキかこたてう
なと云れなり本文と合せ考ふべし

杵築大社神託ききづき おほやうのかみえん たく

益人ますびとが吾神國ワカクニの掟おきてを守らで外まはふ心をうつしなバ神明あたまの仇
なれを我眷属わがけんぞくの神をつかえし其玉たまの緒いとをうむひ取とむ諸もろの
神を祭らんふ我をまづ先まはせぬもろ人の縁ゆかりがひハよもど
げさせしとおもふ

ハ神託ワカクニハ吾國體ワカクニを守らで他國アノクニのみ心をうつす輩トモハ後
憤いそりたまふとなり玉鉾百首よ「いつくべき神かみくらおきて

外國トクニのけーき神をらいつくもろ人と見えくういつくと
を上よもいへる如く祭祀崇敬する事なりおきてハ差置サセオキ
てなり外國ハ字のごとけーきハ異の字を書て御國の
正スベシき皇神スメガミたちよあらぬ恠アヤしく異コトなる神を云イハそもく
世の人よーなき外國の神などをのみ尊信ーていつま
つらでハかなをぬ己オノが國の神たちをバ差置てまつらぬ
をいふなり本文の我コをまづ先サキよせぬとあるハ即ハ事コトを

よもどげさせトハ其心より願ふことありとも何も為シと
げる事ハえあるまじきものぞとなり

すみよはたすまをらみ たまのまをらみ きえたく
住吉座荒御魂大神託

我國の人ハ我神の子なり親の教を失てあらぬかこの教ハ
隨まがふハ我子ミコふあらじ我子ミコふあらぬを彼守カレマモるふよーなし
是これ天照尊アマテラスの教なり我思ミふ益人マズヒトよ保たもちたもて

神の子なりとハ神の守り恵と給ふ人なりとなり信まよ人

の世ヨに在るほど神の恵メよかゞらざる事ハ一ツもなク神
の御蔭ミカゲをかカみらでテ日ヒも夜ヨも在得イべクらズるなり然サ
るを其御蔭をも思シはシて教シも随シらぬも無状ムジヤクりのよテ其
親ミも不幸フコクなる子コも同ド益人イキニトよは意イを思シへよとなリ益人
とハ前マもいへる如カく日ヒも多オホく成ナりゆクをほめ云フ
稱ナよテ即ツち世セの人ヒトをいハふなり

此御神託を以て考カガるコその人神明の御心ミココロよ叶ウふまド能キく

浄考あるべし

問のおもむきと上カミふキ擧ツる神託ミツケとを合アせて考カガるコ其人神
の御心ミココロふかナふまドとなリ

問曰其許金銀米錢ビイセンを貯たくはふる心ココロなく寒暑かんしよのて當あたなる事コトなク
くも神の道ミチを學まなび得うる時トキハ差支さしつかふる事コトなクと教給しやうふ世セの
人下しやうこトを申まふ及およぶバ貴人きじん高位かうゐともモ其時節トキサツのよ當あた金銀きんぎんの
事コト小心しやうしんを用もちひクても猶なほたらば苦くるむ所ところなり然サるコト神道しんどうの

教を學まなびたりとて其日ひくの家内うちの暮くらし小差ちが支たるやうふ
成なりば家いえも治なまらず又また亡ほろぶるふ至いたらんう古こ人じんも三さん年ねんふして
一いち年ねんの貯たくはをのこ残のこすといひる事ことありと聞きくこの事こというふ
は問とハ大人おとなの金銀かねぎんを強つふもとめ貯たくはる事ことなくも神かみの道みちふ
隨したがふを本意ほんいとして業わざを作つくす時ときハ寒暑かんしょの事ことも缺かぬりのぞ
と云いわれしを聞き誤あやられくることと聞きゆ玉勝たまがた間まふも世よと
の儒者にうしや身みのまづくく賤いぢきをうまへずとみ榮さかえを願ねがふべ

よろこむざるをよき事ことよまれどもその人ひとのままことの情なさけ
みあらず多おほくい名なをむさぼる例れいのりつちりなり云いふと
あり正鐵せいてつ大人おとなもいうでうりつちりを教しんや心こころをつけて
見るべし

答こた曰い三島さんしま大神おほがみと託たく

貴賤きせんとなく家いえ毎ごとふ兩宮りゆうぐうおまままびなり此こゝ兩宮りゆうぐうふ能よつあく
て常とこふよろこびの鈴すずの聲こゑ高たかく出い入いる人ひとの足あしの端はみ怨むる

心なくあがめて参詣ぬるならん天よりの寶の雨をあら
地よりハ一切の寶つぎ出天の神も地の神も日夜の影向
のひまなく願ふ所一つとして叶をばといふ事有べし
両宮とハ伊勢の内宮外宮の御事を抑天照大御神を今
の大宮の地ハ鎮座なまられたるハ垂仁天皇の二十六
年と云年なりまゝ外宮ハ鎮座ます豊宇氣毘賣神とヤハ
前も衣食住の段ハ舉ぐる如く食物衣物住家の靈の神

おましますなり外宮ハ鎮座なまられハ雄略天皇の
二十二年といふ年ハ天皇の御夢ハ大御神の御誨ありて
吾一所の御座せむ朝夕の御膳も安く所聞食さず比沼
の眞名井の原ハ座す豊受大神を吾許へ迎まほしと誨
給へるよ依て座せまつりなり内宮御鎮座あり一年よ
り四百八十四年のちなりさてこの伊勢両宮の大庭ハ必
家毎ハ祭りてあり即ち其御蔭を蒙らざるハなく洩る

所ハ無けきハ常ニ御惠をよろこびて親子夫婦兄弟朋友
睦びあそび各々私オノの心なく事コトニ随シひ出入シる人トニ難トな
く賤イしめず交りて神カミの社ヤシをあがめて糸イト指サシののハ天津
神地都神日夜ヒトヨ守り給ひて幸給ひ願ふ事コトみな叶カナふべ
となり

此御神託オノカミノトクふて御考オノカガムあるべし其生ウマれ付ツ愚智短才オロチたんさいののハのみて
不學ムガクなれども神職シノシキなるが故ユニ神カミの教ノチを守り朝暮アサヨ怠りなく

袂タビを唱ナて神樂カミガクを勤ツて神明カミ小事コト奉マツる故ユニ金銀米錢カネギネコメゼン貯たくへる事
なく衣類ウロの心當ココロもなけきど其時トキ節セツくハニ寒暑サムイを志ココのぐみ
足タレりあハ尊たよとまハうな難有トうな神明カミの御教ノチかハる事コトの有あるを
多くの人オノも知しらぬめて人ヒトの心ココロを安やすうら志ココめん事コトを祿ルがふ
のみ

は神託カミトクりて考カガふべし其ハ神職カミシキの身ミなれハ神カミニ仕ツらミなる
を勤ツとして怠オシらぬあれば金銀米錢カネギネコメゼンも其時トキノ事コト缺カけず

足りてあるなりこれ神明の御蔭ミカゲによる事なれば誰人たれひとも
神を敬おそひ道まじふ随まひてあらば心安やすく世を渡わたるべーと思ふ
が故ゆに如此かく教かふるなりとなり

問曰と其許こゝハ神職かみゆゑ祓はらひを唱となへ神樂かみを勤とめ神明かみ小事ことへたま
ふ日ひ々の暮方くれもも差支さしなきハ尤なほのやうも存ぞくられハ
武家ぶけ又またハ百姓ひやくしやう町人まちなどハ神道かみの修あむを致いたして差支さしなきこと
申事まことハあるまどくハ此事このことハいふハや

此こゝハ前まへの説せつをうけてまゝ返かへして問とをれしなり但ただハ神道
ハ神職かみに限りかぎりて士農工商しにうこうの輩たぐひハ行なひがごとく用もちなき事ことの
如ごとく思おもひ又またハ百姓ひやくしやう町人まち各自各自の職業しごくをなまきずてもよきもの
とするうとなゞりたるなり是こゝハ大人おとなの教かみをよく知しらぬ
ふよきり次の答こたへて其意そのいを明あかざるべー

答曰こたへ神道かみと申事まことハ君きみハ萬民まんにんを撫育おん育よくし惠めぐみ臣しんたる者ものハ君きみハ
身命みことを惜おしまらず仕つかへ百姓ひやくしやうハ五穀ごこく野菜やさいを作つくり出いして身みの力を

惜まば町人の其所ありあまねる品をなき處へ送り細工
職人のこゝろへ出す物をあつめおきて入用の人へ賣なし
かくの如くふして神明へ仕奉るなりは何故なれば皆神明
の勅命なればなり然るを私の世渡りのやうに思て武家の
官祿の進まむ事を思ひ農工商ともお利の多うらん事のみ
おひひて私の慾ふふけりて我身の勝をむらう思ひて世の
人の助けを思わざるが故に神の御心ふ叶はばて心中や

まき事なく身小苦惱をうけ人をなやますものなり

神道ハ君を萬民を撫育し恵み臣とするものハ君よ身命を
惜まば仕へといハ天皇の天下を治め給ふを始めなり臣た
る萬民君の御為よ身命を惜まば仕へ奉るが是即ち神道
なりとなり士農工商おのゝ其勤むる業ありて百姓ハ
辛苦をいとむば五穀野菜を作出し町人職人等おのゝ
其業を励むが即ち神道よかなふなり熟く心を著くべし

玉勝間ふ道ハ君の行ひ給ひて天の下よ志きほどこら
給ふべきみこそあま下なる者いたゞ何事も上の侍おも
むけふ志さぐみぞ道なるとあり○神明の勅命なればな
りとハ天皇の天下を治め給ふを始として天下の人民の
真心よよく君よ仕へ親ふ仕へおのく其職業を励み勤
むる人道ハ元来神の定めおきたまひ教へおきたまへる
事なればそれを守りて違へざるが神明の勅命を遵奉す

るなりとの意なり○然るを私の世渡り云くハ神よ仕へ
君よ仕ふる事を思てでたゞ己が自儘よ世を経んと思ふ
より道ふたがひ身も苦しみ又人の妨げをもなすべし然
まバ士農工商たとい家業を励むも神道を忘れて末よの
み流るゝハ我採ざる所なりとの意なり

唐の書ふも學也祿在其中矣君子憂道不憂貧

君子たるものハたゞ道を得んと心を盡すのみふして食

祿を得んとふいあらば道を得まば食祿ハゆとめずして
自然オラツカラ其中ふあるゆのなり故ふ君子の學びハ一向ヒタスラ小其道
を得らまざるを憂ウレふるのみみて貧ヒシをうれふる事を先と
せざるなり

と教へ給ふあゝ世の人の迷まよへるの甚たゞしきなり今より其心
を捨すてて神の御教みまへをうけ天地あめつちの御恩を思ひて仕つかへ給ふべし
外國の人も如此道かゝ道を重おもたりおのくまよひをはらひ

天地の神の御恩ミミを思ひて仕へまゐるべしとなり

問曰其許ハ祿を唱となへ神樂舞まひの事のみ尊たよきやう申されし其
故ゆゑよゝを申たまへ

祿の事と神樂の事の尊タトき禰まきを殊コトさらふ問トをれしなり

答曰吉備津彦大神きびつひこおほみこと託たく

天照神の教の祿くらひを一度ひとたびはらへば百日ひゃくにちの災難さいなんをのがまば百度
の祭文さいもんハ千日の答こたへをすつる千世ちよせん万歳ばんざいを経ても天の神の惠めぐみ

ハつきど生なまとせせくく不たふ貴きハ天地あまのつちの恩おん仰あやまても猶なほあまりあるハ
神しん徳とく不たふ越こゆる事ことなり

天照神の教の被まかとあるハ大被おほ祠ほニ天津宮事あまのつみ以もつ氏うぢとある
を後叙のちニ凡すべて此こ序じ國くにより皇御孫命すまみの朝廷てうていの儀式ぎしきも何
も皆みなかの天上あめの朝廷てうていのふならひて仍なほをせ給たまひしことこ
天津管曾あまのつみ天津祝詞あまのつみなどあるもかゝるくさぐさのゆゑのものも
天津宮あまのつみよて用もちひらるる物ものふなむらへよるよくなるとあ

アかゝるまバ天照神の教とあるも其所謂いふなる事を知しべし
○祭文まつひとハ大神宮年中行事あまのつみニ中臣被なかつみの祭文まつひとあれバ是
も被まか祠ほの事ことなりきぐて被まかふよりて罪穢つみ咎過とがをほらひ清きよ
むる事を丁寧なまニ言ことを重かさねくる義ぎなり此事委ことしく前まへニ出い
たればくよハ注しゆとび○千世万歳せんせばんざいを經へても天の神の惠めぐみ
みハ盡つぶ云いふ神かみの御徳みとくハ廣大無邊くわんだいむへんみして行住座卧常ぎやうじゆざわじやう
み其大なる御徳の中み居ゐるが故ゆゑなり其ハまづ神の造作つく

給へる國土小住み神のな^り行ひ給ふ四時晝夜の造化
を蒙り神の御靈ミツとなり出たる万の物を衣食住ミ用ミきハ
生キ出スしヨリ食ツふも着キるも住ルるも神の惠ミこシ洩レたる事
なき故ニおそれ恒ニとなりて何とも思ハば偶ニ小蛸ノ薬師ト願
をカけて疣ノか落チり觀音ノ祈リて籤ニ當リと言ハう
なる迷ヒ事を殊ノの外ニ辱ク思フハ世ノ人情ナリ又佛ノ并
などを尊キ物ニ云フハ此レらの事ナリ豈イ傍ノ痛ク怜ムべき

事をラずやと平田大人もハれキ本文と合セ考フべ
此御神託ニて淨考ナさルべくハ某全私ノ事を申サば神樂
の事ハ神代ノ卷ニ出スり天照太神天ノ岩戸ニ入リたまハ時
八百萬神等集ヒて天ノ宇受賣命神樂ヲ舞給フ天照太神
出マせるよシ明ラけシ

神樂ノ事ハ前ノ文字ノ問ノ段ニ詳ニ舉グり付テ見ベし
問曰其許妻子ノ事をハ思ヒ給ハばや家相續シて榮ルこそ

先祖への孝なるべき小既年五十ふあまれる小子孫へゆ
づる禄もなく又貯もなく其日くよ世をねくりたまふを
子孫を思ひ給ふ慈悲のなきり末をはうりたまふ思慮のあ
らざるや其故いうに

は問ハ信よ人情の當然なる事なり誰人も父母を慕ひ妻
子を愛と憐むハ真心なり然るよ金銀食禄を蓄貯ふる事
なく世を送り給ふハ人情よかなむと疑われし趣なり

答曰世の人財寶を集め又ハ禄を求めて子孫小護るとい
ども財寶ハ散トやそく禄ハ失ひやそく猶財寶有ゆゑ子孫
寶のため小兄弟相奪ひ合て中をたぐへ九族相争ふ者多し
禄あるが故小子孫身持情着ふして驕り小長ト上の御惠を
思ひ下をあそれむの心なく世の人を苦しむるもの多し其
子孫を思ふ事人小こえり故小老て子なくたつきなく又
ハ病者いとけなくして父母なき者生れつき情慢ふして事

を勤め難きりの不幸小して親族小捨られし者若き血氣小
まうせ色小迷ひ酒小乱きて身を脩むる事ならざるものを
あてれ小思ひて助け養ひおき神明の淨教をもちて諭し安
から志めん事を願ふ如斯ならば天地の淨心小も叶ひ子孫
も自くら榮えとぐらんと思ふなり財寶を以て寶とせんや
神明の淨傳こそ誠の寶なるべし

本文の趣ハ世間の状態を目前に見渡して示されたるこ

前後小よく心を注て見べし○身持情着云々かゝる人物
ハ神の御徳君の淨惠を思ひ志らざれを下をあをれむの
心なりとなり西行の歌小「心なき身もあをれハ志られ
けり鴨たつ澤の秋の夕ぐさ。此ハ法師ハまぐて君親妻子
をも捨て樹下石上をさへ小定むる住所とせじ清く世情
を離るゝを専と志するもの故ニあをれを志らぬ人なり
其あをれ知らぬ身も何をシ知らるゝと詠るなり此

意よてあわれと云^クことの味^ミひを知るべし。○子孫を思ふ
事人ふこえり云^クハ子孫を思ふ慈悲^{ジヒ}なきうといへる
問ふ對^{コタ}へてゆとより子孫を思ふが故ふ如此^{カク}神道を守り
人ふも教ふるなりといへれよて財寶家祿ふまさりて
後の為ふ益^{エキ}ある事をなすといふ主意なりよく味ふべし

八幡宮神託

益人^{マセヒト}よ乞食^{コトドモ}癩^{らい}蟻^ぎ蟻^ぎ至^{いた}るまで深^{かう}くあわれむべし。惠^{めぐみ}あをま

みの廣^{ひろ}きりのハ玉^{たま}の緒^{いと}限^{かぎ}なく永^{とこ}く子孫^{つる}鶴^{つる}の羽^はをひろげ
が如^{ごと}く天^{あま}の神^{かみ}の直^{ただ}き心^{こころ}ふも自^{みづか}らなるべし。慈^じ悲^ひの海^{うみ}廣^{ひろ}け
ま^まば天^{あま}の月^{つき}か^かげをうつせり

此神託も前よ云^クあわれの心なり人情の信^{まこと}なりよく人
のまことをつくせばそれやがて神の直^{ただ}き心^{こころ}ふかなふ
りのなり其心廣^{ひろ}けま^まば天^{あま}の月^{つき}か^かげの大海^{おほうみ}ふうつきる如^{ごと}
く洩^ある事^{こと}なく神の守^{まも}りを蒙^かるべしとなり

倭文大神託

諸人の世の人の助とならん事をつね願も一學も一あら
むののをむ吾つねふ神力を励まして日此本の神寶とせん
いたづらふ世の人の國の産をつひやさんをむかたらび我
かまをしてそむけて失なもん

六ハ世の為人の為となる事を恒ふ心は掛て急らば學問
もるも何をもちるも己ま一人の利をはうるよあらば國の

為よ心を盡もものハ神力を励まし名を立て功を顯し
大御寶の稱も恥ざるやう為べしとなり徒に國産をつひ
やさんものハ終ふ神の罰めをまぬれず何事も背向て
失もんものぞとなり

此御言葉を以て我子孫を思ふ事を察し給ふべし

此御言葉どもを伺ひても我心を察し知らるべしとなり
たゞ金銀食祿をのみ蓄貯ふるとも神の道ふ叶をぬ時ハ

家も身も立たがらまきものぞとなり

問曰天あめの心こゝろふ叶かひ地ちの心こゝろふ叶かふと申事まををいうなるを天の
心と申まをひや地の心と申まをひや

は問ハ天あめの心こゝろ地ちの心こゝろとハ何なにを指さして申まをもものぞま其心
ふ叶かふと云いハいうなる所ところを申まをやとの意いなり

答曰天あめの心こゝろと申まをひハ天照あまてらす一ひとまに大神おほかみの心こゝろふ叶かふをい
なり地ちの心こゝろと申まをひハ大國主尊おほくにみの心こゝろふ叶かふを申まをなり

天照大御神の御心を天の心と申まをひとハ彼の高天原を
食を御神みかみよりて天上の大主宰おほさしとままに大神おほかみなればな
アままま地ちの心こゝろを申まをひハ大國主尊おほくにみの御心こゝろとハ此御國ハ皇すめ
美麻命みまのみこと天降あめりまりて大國主尊と御誓みちかひの事ありて顯幽あやの
分界わかを定め給たまひ現世あきよの事ハ天皇てんかうこれを知食しじく一ひと幽世あやよの事
を一向大國主尊の掌てのひらり給たまふ事と定さだりていいをゆる幽冥主あやみ
宰さいの大神おほかみなればなり

仲哀天皇詔ふ 十四代帝

人の主としてハ萬民の心をもて心として萬民の家をもて吾
家として萬民の衣服をもて吾衣としておのれなきを人の主
とをいふなり

人の主とハ天皇の御親の御上を仰られしなり即皇國の
大君と座まゝしてハと云ふ御言なり○萬民の心をもて心
として云々萬民の心安くあらば大君の御心も安く若苦

める時ハともふくるしとの御ことなりまゝ衣服なども
寒暑ふ時を失むに安穩ふ住居を聞き召てハ御心も
平らうふ静まりまゝ風雨其外の禍災に逢ひ萬民疾苦を
る時ハ太く御心を惱ませ給ふなりくくをもておのれな
きとハ宣へるなり

嵯峨天皇詔ふ 五十二代帝

朕より後の人の主ふ志めすなり國土の邪氣者を罪せんよ

と萬民のまづき事をはうらひて苦みを救へ悪人の消失
なん諸人のあき振舞をなまは普今日をおくりかねる
よりおこるなり國家に悪人として源をたぐ天地の養ひを
あらでむなく世を渡るは有ものなりおろく不賤もの
直き心なきことつりなり直うるべき人の主の直うらぬ
ゆるなるべし

朕より後の人の主ふ志めんとし己命の御後を受継給ふ

大君は仰給ふ御言なり○國土の邪氣者云く即悪き邪ま
なる者なり其ハ悪き行ひあらば罰め罪をるハ國の法に
然るを其罪なることを宥め給ひて先萬民の困窮を救ふ
ことをはうらへとなりさればやうくは悪き者も消失
るなるべし世間ニ悪行をなすもの今日をおくりぬる
やうの貧窮者より多く出るなり其悪人として他ニ異なる
よハあらびみな皇國の人なりたぐ天地の神の恵みも知

らば惟神の道を失ひてむなく世を渡りて有ものなれ
ハ怜て救まんとの浄意なり○ねろろみ賤りの直き
心なき云々諸民の悪行など聞し召てハ御心は深く歎か
せ給ひて畏くも御みづからの浄心をも慎み給ふ所言
明治敕詔も天下億兆一人も其所を得ざる時ハ皆朕が
罪なりと宣へり謹て大御心のある所を窺奉るべき
大國主尊ハ身ハ八坂の瓊をかけ給ひて道の街ハかくきた

まふて人のあらぬやうハ深く幽まて罪咎つくる者を
あそれみ給ひて表し顯をれざるやうハ救ひ助けたまふ此
趣を能く浄考浄覽ハ誠ハ人の主たる浄心をせ難有浄事
とま存ハ

大國主尊ハ身ハ八坂の瓊をかけ云々八坂ハ彌真明と云
詞の約まるよて曇なく清く明なる玉をいふさて此事ハ
日本書紀神代卷ハ即躬披瑞之八坂瓊而長隱者矣と有て

幽顯分掌の御時よ現世の事を悉く皇御孫命よゆづりた
まひて大國主大神ハ永く幽冥み退き隠きて幽冥より世
の吉凶禍福もろくの事を守り給ふ事となれるをいた
まゝなるなり○道の街よかくま給ふとハ古事記よ於百不
足八十垵手隠而侍とある意よて人の眼み見えば隠ま給
ひて幽事あらしめはことを示されしなり猶天地よ叶ふ
と云ハ一家一身よ在ても上よまゝがひ下をめぐむ事杯

皆其心ばへなり

古き歌み聞毎よ君の恵の深けまば身もおしまとねもひ
ぬるかな

此歌よみ人をあらは歌の意ハ何よつきても大君の御恵
の辱なきを喜びて身を盡しても仕まらん事を思ふとこ
問曰神の御傳ふ十種の神寶と申事有之由其中よも瀛都鏡
邊都鏡と申事雜有御事よてし趣よ承し御尋ね申度し

十種の神寶とハ古語拾遺ニ見えくる神武天皇の御世ニ
饒速日命ニ天皇祖神の十種の神寶を授ひて降し給ふ時
ニ若痛所あらハハ十種を合せて一二三四五六七八九十
ト云ひて振へ由良くと振へ然してハ死人も生返らむ
と教導し給ひハ鎮魂祭のホみて其十種とハ生玉足玉
奥津鏡邊津鏡十束劔道反玉死反玉蛇比礼蜂比礼種々物
緒なりかくて神祇令義解ニ鎮魂言招離遊之運魂鎮身體

之中府故曰鎮魂とあるを以て知べし猶この御祭りの深
き故よりハ中々此ニ大意をだす云盡すべくも非ざれば
委しくハ古事記傳古史傳ニ付て弁べし本文ハ其神寶の
中なる二種の御教ごとを問われしなり

答曰十種の神寶と中事ハ天照太神の御傳よてふかき大事
事座由承り中々以て其など委く申べき事ハ事座由
へども御尋故瀛都鏡邊都鏡の御教可申し先鏡と申物ハ

我姿をうつつゝの者よて我姿悪き時いあゝく移りよき時
ハよく移りひ世の中多くの人の心を鏡とて我心の善悪皆
移りてあるとやたとて我心あゝけまば我ふ向ふ程の
人の心あゝく我心よけまば向ふ人の心よく少くもたがふ
事なきものなりとの浄教よて其心先より先へ移るものぞ
との浄教が邊都鏡のりこれのよゝ故ふ一家の主心ぶゝき
時ハ家内皆ぶゝく一國の主ぶゝけまば一國ぶゝみな己ふ

ありて人ふあらばとや事よて法座に

十種神寶とやハ天照太神の御傳よて深き浄謂ある事と
承り云ふ即前よ舉たる所を以て其意を得らるべし〇鏡
とやものハ我姿をうつつまものといハ此ハ天照大御神岩戸
を開けて出座する時ハ浄貌の映まるより後世人の持てる
鏡も其浄因縁よ依ることを云まゝなり又鏡の名ハ炫々
見の義ともありて善きも悪きも直なるも曲まるもその

まゝみうつり見えて明らうなるぞ信よ焔々見なる○世
の中多くの人の心を鏡と云ふこハ前の謂みて形有る
ものハ鏡よ向へばそのまゝ直み見ゆるごとく形ちなき
我心を見むとさるよハ人の心を鏡と善惡ともみみな
我姿のうつりと思ひまゝ其心先へもうつり形もの
と知るべしとの教なりあのよく心を用て見るべし

唐の書ふも一家仁一國興仁一家讓一國興讓一人貪戾一國

作亂其機如此此謂一言債事一人定國

此ハ上一人仁を好めば下民も仁を尊とむものなり一家
の内禮を守り身を謙る道を好めば下又謙讓を道を引
興をも一又上よ立方貪戾なれば其一國の民乱るなり
其機も此のごとく實も上よ立方一人の言みて事を
債るとも云ひまゝ國を治め定むるとも云なり前の説と
合せて見るべしを以て己を知り己よかへることハ

大事の学マコトガクと云イハれハなり

と中事ナカコトも此事コトと存タマられハ又君子クニノコハ弓射ユミイロが如ごとく射イるマば己オノレの射方イイコトのあらきを思おもふとあり何事ナニコトも己オノレより出いて彼かれふなきものと知るべしとの神教カミノキョウなり己オノレを知しり己オノレよかくると中ナカこと大事マコトの学ガクよは在ある箇こゝ様やうなる事コトハ智賢チケン者シヤ皆みなよく志しる所ところなれども身みよ行おこなふもの少すくなりたゞ心こゝろ小覺こゝろえ口くち小云いふのみ然しかるふ神道カミミチの瀛都鏡邊都鏡オキツツカミヘツツカミの傳つたへをつつへうへうる時ときハ

少すくく宛あたてたきふても其その行おこなひ出い来きヤハ年月トキ心こゝろ急いそぐへむ全行ぜんぎやうひ得うるふいつつるなり是こゝ神カミの傳つたの尊たかきが故ゆゑなり

然しかるふ神道カミミチの奥津鏡邊津鏡オキツツカミヘツツカミの傳つたへをつつへ得うる云云ふ此こゝ事コト即すなはち鎮魂チンコンの儀ぎを云いひ一なり無形ムギヨウの我心オノココロを知しる事コトハ先ま離遊リユ之運魂シユンコンを招まぎ鎮しんめざれバ得うべかららざるなり誰人トモナリもこの神事カミコトは預まらバ其事コト行おこなはれむものぞ穴賢アナカシと神カミの神傳カミツタたふとむべし仰おほぐべし

問曰我親族多くして其上志ありき者のみ又召仕ふものら
我儘不成行種ふ教諭し又ハ法を以て紀ゆへども行まじい
かぶなすべきや

是ハ家を治むる事を問ひなり法を以て紀すといハ謂ゆる
家法よて其立方何色よもあるべし

答曰人の風俗を直し世の風俗を變ぢる事ハ基以てか
古人も刑罰を以てまれば人怨み罪人多し法を以てまれば

民苦みて只其法をまぬりきん事をのみ思ふて恐怖きて安
からば古人今人ふも終ふ事を得ず滅ぶかき事なり然も
ども皇國の傳への尊き事ハ其などの如き生れ付行届ざる
者なれど親族もてあまし比振なる身持ありく風俗ありき
者も某が家ふ来りて多く門人となり居ハ半年一年皇國の
教を受ゆへむ自然直りゆは是全某が教かこよらしきふあ
らば傳の尊きが故なり譬ハ水と油ハ交らぬものなれど

其交まる法の傳つたへをうけまば愚者ぐしやと維つくども心易やすくまどる根ね
なるものよそ其人其人の力ちからよあらば傳つたの尊たうときぶ故ゆゑなり其許まこと誠まこと
の心よて家内の者ものをあそれむ心あらば皇國みくにの神教しんきやうを受け
たまひて親族せんとくを安やすからしむべし是先祖せんぞへの孝子孫きやうしそんへの慈あはれ
悲ひなり等閑たうかんの事ことふあらば深ふかく思おもひたまふべし

人の風俗ふうぞくを直ただし世の風俗ふうぞくを變かへる事ことハ甚難へんなんとなり信しんよ
さもあるべし玉勝間たまがたよ道みちふかなそぬ世よの中なかの志こころざと

て攀たづられし小道せうだうよかなそびとて世よ久くく有あらひつ
る事ことを急いそふやめむとさるハ多おほく只ただそのそこなひの筋すぢ
をはぶきさりてあるものハあるよて差さおきて真まことの道みちを
尋たづぬべきなり萬よろこの事ことを志こころして道みちのまじふ直ただし行いふむと
まるハ中なかふまことこの道みちの心こころよかなそざることあり萬よろこ
の事ことハおこるもほろぶるもさかりなるもおとろふるも
みな神かみの神心かみこころよあればさらふ人の力ちからもて得えうごかず

登き登ぎよハあらばまことの道の意をさうり得たらん
人ハたのづから此ことさうりハよく明らめざるべきなり。
とありて本文ハ示され〜同ト意ナリ○家内の者
をあなれむ心あらば皇國の神教を受給へ云ふ。と前の説
のある物ハあるよてさ〜置てまことの道を尋ぬべきこ
とらふ〜合せて其味ハを知るべ〜かよかくふ己ガ
カのみみてハ事ハさ〜のさぬものなり

問曰天津祝詞太諄辭と申事いふなる事よハヤ

問の意本文よて明らけ〜

答曰天津のりとふとのりこと申ハ中臣の被ふこれを宣ハ
天津神地都神御神徳をもちて罪といふ罪咎といふ咎を被
たまふと申事ふて神道の大事なり不學愚智の某杯上ハ
事及びが〜き義ハは産ハ〜ども神尋み付一通申上ハ天津
祝詞と申ハ天の徳ハ乘り太諄辭と申ハ地の徳ハ乘りハと

申事よて天地の氣あめつち小乗きせうゆと中事ちゆうじなり唐國かうこくよても天てん小則せうそくの
又ハ天地てんちの法かふのと申又ハ天てん小從せうじゆふ又ハ天命てんめいを知るしるなりと
申も是こゝを知りて其令命そのれいめいは從したがふと中事ちゆうじのやうようは承うけゆへとも
唐たうの學がくハまなるむざればあらじに日本にっぽんの教きやうハのりのりとハ以こと言葉ことば
ふて乗法じゆうぼう則すなはじぎも通とほひ事じよて言葉ことばの妙用めうじゆう言葉を以て傳つた
るの教きやうなり

天津てんしんのりのりとふとのりとと中事ちゆうじハ中臣ちゆうじん被ひふ云いふ是こゝハ今傳いまつた

もる大被たいひ詞じは出いたることを云いふなり能理のり斗と基登きとんハ
宣説せんせつ言ごなり天津てんしんとハ天てん上じやう小せうなりひて行いふことふ云い稱しやうハ
ふとのりのりとのふとのハ大たいの字じの義ぎよて祝詞しゆじをほめ稱しやうへて
いふなり委いくハ大被たいひ詞じ畧注りやくしゆハ云いへり○天津祝詞てんしんしゆじハ天
の徳とくは乗のりり太諄たいしん辞じハ地ちの徳とくは乗のりり云いふ此こゝハ深ふかき謂いあり
てことさららよ人ひとを教きやうへむとて云いふ事こと成なりべし考かう
べし唐國たうこくのことを引ひきくるハ本文ほんぶんよて意明いめいららなり

この意を古歌ふながきよのこをのぬありのみなめさめな
みのりふねのをとのよきうな

此歌よみ人をあらうに歌の意も定ならびまゝ殊よ古き歌
とも聞えび本文よ大人の示し給ひし事をよく見て各
うることあらんまばらく付て考へよ供ふ

此心ハながき世のこをの祢ありの皆眼醒浮世の悪き波ふ
も船ふのりたれば安く世を渡るとや事よて此船ハ二つと

なく只一つの霊の寶の船なり是ふ乗得まばまぐふ神の則
ふ叶ひ上の法ふ叶ふと申事なりふと申ハ日本の教の言葉
の大事天地の氣のめぐりて留らば止事なまをいふぬと申
ハ根元を申よて木の根など申意よて人の心の法命の根と
申事なり此船を神書よ岩櫂樟船と申たり磐櫂樟ハさうえ
榮えて朽果ぬをいふなり又此歌ハ上より讀ても下より讀
ても同歌なり貴人より知まば順なり下人より知まば浮沈

のなみふあふの心あり妙言の歌なり猶天津祝詞太諄辭の
事ハ言語みつくりがき神の御傳なり

うきせハ憂世といふ事よて憂き事のあるより詞なり
からぶみよ浮世といふ事もあるふまがひて常よ浮世と
かきならひてたゞ何となく世の中のことみいふハ誤り
なりと宣長大人云き事前よも既よいへるがごとし○
船とハ伊勢の御鎮座本祀よ天照大神の神靈實を納め

奉る御船代を云ふ所よ船代則謂天材木屋船瑞舎名号屋
船縁也とあり然きハ船代とハ屋船代の畧語よて屋船と
ハ御殿の別称なるが屋ハ神よまれ人よまれ乗て住ふ物
なる故よ舟とハ云へり家を屋船といふ事ハ大殿祭祀詞
ふも見えしり岩椽樟船ハ神代巻よ見えて一の船の名よ
て楠を以て造る意よして岩とハ堅固なる謂れなり

葦原の志げさるなりふ立波を乗得てうれし磐椽樟の船

此ハ大人の詠歌と聞ゆ歌の意ハ葦原の中つ國の此御國
ハ浮つ沈みつ種々のうき事のあるを我ハ謂ゆる磐楸樟
船よ等しき堅固なる神の御教ふよりて安心決定したれ
む立波のさびぐ中も知らば心安く世を渡るへくと物ふ
譬へてよまれとなり

問答書畧註をとりぬ

明治二十年十二月十六日版權免許
全二十一年三月二十日印刷
全三年三月廿三日出版

定價金三拾錢

神道禊教本院藏書

註者

東京府平民

坂田安治

發行人

同

坂田鐵安

印刷人

同

和泉平助

彫刻人

同

江川八左衛門

東京神田區鍛冶町四番地

東京淺草區永住町百廿七番地

東京下谷區西町一番地

東京下谷區西町二番地

賣捌所

千鐘房

北島

茂兵衛

東京日本橋區通一丁目

全

金港堂

原

亮三郎

東京日本橋區本町三丁目

全

中外堂

柳河

梅次郎

東京日本橋區本町一丁目

全

十一堂

長谷部

仲彦

東京京橋區銀坐一丁目

全

温古堂

内藤

傳右衛門

甲府常盤町

